【全国納税貯蓄組合総連合会優秀賞】
「僕と税金」

砺波市立庄西中学校一年　草　緋勇

暮らして行く上で税金は必要らしい。増税減税措置、ニュースでは連日税、税、税。一憂することはあっても一喜することはほぼないと、家族はよくこぼしている。しかし僕に関して言えば税金に感謝しないといけない。僕は、実は小児慢性特定疾病を持っているからだ。

三歳の時から月に一回必ず病院に行っている。僕は平均より身長が伸びにくい。骨年齢も同年代より２歳程若い。だから小学生のときにサッカーをしていたが２回骨折した。同年代では耐えることができる接触プレイでも僕は簡単に骨が折れる。あと必ず週に六回は家で注射をしなければいけない。昔は七回だったが、量を増やすことで打つ日を減らした。ちなみに未だに自分で注射を打つことはできない。その治療も終わりが見えてきた。百五十六㎝になると治療は終了となる。

ここまで約十年間、一度もお金を支払っていない。僕がほぼ毎日打っている注射は一本七万円するらしい。十日で無くなるから、一日およそ七千円が僕の体に入っている。全て税金でまかなってもらった。この税金がなければ今頃僕は、百二十㎝もなかったかもしれない。母はよく「この物価高でもウチは消費税も住民税も自動車税も文句言わないで払わないといけない」とよく言っていた。僕の身長は税金が伸ばしてくれた。

サッカーをしていたときに二回骨折したが勿論そのときもお金を支払っていない。他にも保育園の時に、上手く発音できなくて言語聴覚士がいる大きな病院へ行って二年間リハビリをしたのだがそのときもそうだ。ちょくちょく風邪をひいてかかりつけの病院で支払いをしているのを見たことがない。全部子ども医療費無償化という名前として税金がまかなってくれた。

最後に、教科書に「税金によって無償で支給されています」と書かれていたのを見た。その前には「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ」と書かれている。僕は日常生活にはあまり支障はない病気だが、通院するときにもっと重い症状の子どもをたくさん見てきた。きっと税金の力を借りて治療していると思う。病院で順番を待っていたとき、ここにいる僕たちはこれからの日本を担う仲間なんだと思った。